気仙沼市立病院における
バックキャスト研修の成果報告

4期Aグループ

1. 授業前の知識

・少子高齢化による高齢者を支える構造の変化

・それは地方で顕著であり、医療資源とニーズが不一致であること

2. 授業の目的・到達目標

・地域医療の課題・解決策を設定するワークを通じた未来型医療に関する構想の涵養

3. 授業内容

授業内容は以下に示すとおりである。

<table>
<tr><th></th><th>7/25</th><th>7/26</th><th>7/27</th><th>7/28</th><th>7/29</th></tr>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th></tr>
<tr><td>8:30</td><td rowspan="3">移動</td><td rowspan="2">病院講義
（石田先生）</td><td rowspan="2">地域医療講義
（横田先生）</td><td rowspan="2">食道癌・透析講義
（石田先生）</td><td rowspan="4">プレゼン準備</td></tr>
<tr><td>9:00</td></tr>
<tr><td>10:00</td><td rowspan="2">院内見学</td><td rowspan="2">岩井崎伝承館
見学</td><td rowspan="2">透析見学</td></tr>
<tr><td>11:00</td><td>コロナ抗原検査</td></tr>
<tr><td>12:00</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>13:00</td><td>オリエンテーション</td><td rowspan="4">在宅医療見学

本吉病院
（斎藤先生）</td><td>WOC講義
（小野寺さん）</td><td rowspan="3">手術室見学</td><td rowspan="3">学生発表
フィードバック</td></tr>
<tr><td>14:00</td><td>循環器講義
（尾形先生）</td><td>感染管理室講義
（星さん）</td></tr>
<tr><td>15:00</td><td></td><td>地域医療連携講義
（熊谷さん）</td></tr>
<tr><td>16:00</td><td></td><td>胃癌講義
（平宇先生）</td><td>呼吸器内科講義
（滝田先生）</td><td></td></tr>
</table>

図 1：気仙沼市立病院 BC 研修スケジュール

4. 研究や仕事などに生かせる点

研究分野の異なる私たちは共通して「生かせる点」を見つけた。それは広い想像力と関心を持って研究や仕事に励むことだ。なぜ私たちはこれらが重要だと感じているのか。それは、自分が当事者となれない領域まで思いをはせ、自分のこととして関心を持つことが、より良い研究・仕事につながり、ひいてはよりよい社会を構築できると考えるからだ。

今回の実習を通して、知識として知っていることと現実を理解していることは全く異なることを自覚した。少子高齢化が進む中で医療資源とニーズに不一致が生じることは知っていた。しかし訪問医療や医師との議論を通して、現場感は全く異なることを学んだ。例えば本吉地区では 10,000 人の住民に対して、医師は 5 人しかいない。ゆえに当

直は月に 7〜8 回こなさなければいけないし、仕事範囲はコロナウイルスの検査から訪問医療までと非常に多様だ。これらの事実について私たちは知らないわけではなかった。だが現場観察を通して初めて共感し、今現在、社会に生じている課題であると自覚した。

私たちは各々の世界を生きており、あらゆる事象の当事者にはなれない。今回実習を行った気仙沼市立病院・本吉病院は地域病院だ。地域病院には 3 人ともゆかりがなかった。それゆえに現場観察前、地域病院の医療資源不足・医師の負担を具体的に想像することはできなかった。

では地域病院をはじめとする、医療の様々な課題について、自分たちには関係のない他人事として放置してよいのだろうか。私たちはそうは思わない。当事者にはなれないという事実を受け止めつつ、社会課題を想像し、関心を広く持つことが重要であると考える。

そして関心を広く持つことはより良い研究・仕事につながる。なぜなら自分が知っていることだけに取り組む研究・仕事は発展に乏しいと考えるからだ。自身の関心にのみ基づく研究・仕事の範囲は限られているし、いずれ尽きてしまうかもしれない。しかし現代社会には様々な課題が山積しているし、自然科学にはわからないことだらけだ。この時、社会における課題やわからないことに思いをはせ、自分にも関わりがあることと捉えて取り組むことでこそ、研究や仕事に発展があると考える。そしてその想像力や関心は、広ければ広いほど、深ければ深いほど望ましいだろう。

今回、私たちは「地域医療の課題発見とその解決策の提案」という卓越推進室から課された課題に取り組むに際し、想像力を持ち、関心を高めることを目的に取り組んだ。バックグラウンドの異なる 3 人それぞれが取り組み、以下の課題、解決策を提案した。

表 1：各々の定義する課題と解決の提案

発表者	課題	解決策
A	医療従事者偏在	教員人事制度の導入
B	高齢者の独立	高齢者学校の実施
C	低い検診率	スーパーマーケットでの検診の実施

もちろん、私たちの行ったものは完ぺきではない。乗り越えなければいけない点は山ほどある。しかし、間違いなく当事者になれないことについて想像を働かせる力・関心を高く持つ力の形成の機会になった。この経験は各々の研究・仕事に対して大きな糧となるだろう。

今回の現場観察では、私たちがいかに医療課題を知ったつもりでいたかということを自覚した。一方ですべての事象の当事者になることはできない。よって社会における課題を想像し、関心を持つことが重要であると思った。そしてその関心をもって研究や仕事に取り組みたい。

5. 影響を受けたこと

5.1. 自身の研究や価値に関すること

・知識と現実の乖離
・ニーズを想定した課題設定を行い、研究を進めたいこと
・高齢化社会においては、経済的に恵まれる人のみが福祉を受けることになりかねず、能力主義が進行するかもしれないという地域医療従事者の考え

5.2. 未来型医療に関する考え

・将来の都市部におけるモデルケースを見ることで、これからの日本社会でどのようなケースが増加するかに関して考えたこと
・高齢化が進む中で、治すこと・延命が医療の目的とは限らないという価値観

6. 授業の限界・来年度以降の改善点

6.1. 現場観察に関すること

・研修では医療側の視点に限られており、患者側の視点は触れられなかったこと
・いろんな科を見たが、ゆえに議論が分散してしまったため、見学する科を絞ってもよかったこと

6.2. 最終プレゼンテーションに関すること

・課題発見・解決策まで考察する複雑なプレゼンテーションであったため、グループワークでもよかったかもしれないこと
・最終発表においてオーディエンスが少なく、ディスカッションができなかったこと
・最後の発表に何を求められているのかが分かりづらく、前半の取り組み方が発表に合わせたものにできなかったこと

6.3. 運営に関すること・その他

・ファシリテーターが毎年異なるため、年によって目的が異なること。もし FM 運営側で目的が一定なら、ファシリテーターと共有することで解決できるかもしれない
・ファシリテーターの講義を研修前に行っていてもよかったこと。この時、ファシリテーターの負担を軽減するため、全班同時実施やオンデマンド実施も考えられる

7. まとめ

私たちの班での目的は「地域医療の課題・解決策を設定するワークを通じた未来型医療に関する構想の涵養」であった。この目的に対して、現在高齢化の進んでいる地域医療を観察やプレゼンテーションを通して、未来社会のモデルケースを想像することができた。全体を通して、私たちは本研修の目的を達成することができた。